

神鵜

Kami-U

能村研三

Nomura Kenzo

鵜祭は氣多大社の神前に放った鵜の動きから翌年の吉凶を占う神事。神前に一対の蠟燭が灯る中、神職と鵜捕部が問答を交わした後、鵜が放たれる。鵜がよとみなく上れば吉、なかなか進まないときは凶。神前に放たれた鵜は瞬く間に蠟燭を掻き消し突然漆黒の闇に包まれる。大役を終えた鵜は雪が舞う中、一の鳥居近くの一之宮海岸で暁闇の空に放たれた。



伝統を未来につなげようと
俳句ルネッサンスへの士気が
高まる著者の第八句集。

東京四季出版

寒
雲
を
支
ふ
る
仁
王
怒
髪
像

淑
氣
満
つ
梅
鼠
て
ふ
古
代
色

筆の穂を噛めば筆の香二月来る

黒松の直幹を打つ涅槃雪

涅槃図の真筆偽筆ともかくも

百畳の風を背に涅槃像

酒肆の灯の路地より洩れし忘れ雪

一枚の空のあまねし白辛夷

閨室に待つ一艇や大根咲く

かぎの手に細め火通す畦火かな

一筋は心鎮めの野火けむり

引き際の美学を嫌ひ目刺喰ふ

六義園

緑立つ水分け石は音の景色

春の夜の譜めぐりの間も曲流れ

ざ
う
ざ
う
と
音
が
促
す
芽
吹
山

春
愁
や
練
習
室
の
壁
か
が
み

印
泥
を
籠
で
練
り
上
げ
桜
の
夜

旧片桐邸

廃
邸
の
沓
脱
石
の
さ
く
ら
冷

逃水の車間捉へし後続車

舟うらら塩商ひの運河あり

荃立の雨に一日が長きかな

だんまりに筋を通して独活膾

ケロリンの湯桶が響く花月夜

悼 鈴木鷹夫さん

さくら冷「様子がいい」と江戸言葉

朝掘りの筍並ぶ寸の順

分け入りてあかざしろざを踏みしだき

海光や潮の香締めて大茅の輪

麦秋にまぎるるまでを見送りぬ

山青し笛一管の試し吹き

岬端に踏まれて強き車前草

空仰ぎ挽ぎたてトマト丸齧り

夏至光に朝一礼の宮大工

淋代海岸

海霧ごめに來る波音は寧からむ

西日中時間貧乏楽しめり

市川西高・宗左近校歌碑

廃校に校歌碑のこり蟬時雨

浮くといふちから一途にういてこい

狂ひ飛ぶ蟬命終の間際まで

板塀の木理するどき帰省かな

猪独活の峠照り降り繰り返す

やうやくに秋兆す日のビル斜影

霊巖に触るる素足は霧の中

禊とも湯殿詣での素足かな

降り際の風が匂ひて盆支度

手を回し内鍵開ける盆休

庭手入れ釣舟草に紐印

下戸されど送り火前の送り酒

大
仰
な
西
瓜
両
断
車
座
に

一
舟
が
湖
霊
を
覚
ま
す
爽
気
か
な

澄
む
秋
の
竹
林
立
の
斜^{なぞ}
へ
か
な

こ
れ
よ
り
は
禁
葷
酒
な
り
式
部
の
実

著者略歴

能村研三（のむら・けんぞう）

昭和二十四年、千葉県市川市に生まれる。

昭和四十六年「沖」入会。能村登四郎、林翔に師事。福水耕二の指導を受ける。

平成四年句集「鷹の木」で第十六回俳人協会新人賞受賞。

平成十三年四月より「沖」主宰を継承。

句集に「騎士」「海神」「鷹の木」「磁気」「滑翔」「肩の稜線」「笹花の雷」。

随筆集「飛鷹集」にて日本詩歌句協会随筆大賞受賞。

平成二十九年三月より公益社団法人俳人協会理事長。

国際俳句交流協会副会長、千葉県俳句作家協会会長、現代詩歌文学館振興会

評議員、日本文藝家協会会員、日本ペンクラブ会員。

読売新聞各県版俳句選者、朝日新聞千葉版俳壇選者、北國新聞俳壇選者など。

現代俳句作家シリーズ 耀 7

句集 神鶴 | かみう

令和 3（2021）年 5 月 24 日 初版発行

著者 | 能村研三

発行者 | 西井洋子

発行所 | 株式会社東京四季出版

〒189-0013 東京都東村山市栄町 2-22-28

電話：042-399-2180 / FAX：042-399-2181

shikibook@tokyoshiki.co.jp

http://www.tokyoshiki.co.jp/

印刷・製本 | 株式会社シナノ

定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-8129-0963-8

©Nomura Kenzo 2021, Printed in Japan

落丁本・乱丁本の場合はお取り替えいたします。